

## 6. 別表5(1)：税効果(法人税等調整額の内訳)

メニュー401>[5(1)：税効果(法人税等調整額の内訳)]WSでは、別表5(1)に記載する「繰延税金資産」と「繰延税金負債」の当期の増減額を入力します。繰延税金資産は**マイナス金額**、繰延税金負債は**プラス金額**で入力します。

なお、当ワーキングシートは、[当期利益・納税充当金・通算税効果額等の入力]WS>[税効果会計の適用]区分で[適用初年度]又は[適用2年目以降]を選択している場合に入力できます。

法人税等調整額(C)		加減区分		減算		
		金額		金額		
					31,300,589	
内訳	別表五(一)の摘要	期首現在利益積立金額①	適格合併等の引継額(当期の増③)	当期の増④	当期の減⑤	差引[翌期首現在利益積立金額⑥]
	繰延税金資産	-1,245,321,342		-31,064,357		-1,276,385,699
	繰延税金負債	3,111,111			286,232	2,874,679
	小計	-1,242,210,231		-31,064,357	286,232	-1,273,510,820
	計(D)				-31,300,589	
	差異確認(C-D)				0	

- ①繰延税金資産はマイナス金額、繰延税金負債はプラス金額で入力
- ②その他有価証券、繰延ヘッジ損益に係る繰延税金資産・負債は、当画面では入力しません。

差異が「0」となっているかを確認してください。

### (1) [差異確認]欄

[当期利益・納税充当金・通算税効果額等の入力]WSで入力した[法人税等調整額]と当画面で入力した当期の増減額の[計]欄が一致する場合は「0」と表示されます。

### Point 法人税等調整額の内訳の[差異確認]欄が「0」となっているかを確認してください。

[差異確認]欄が「0」となっていない場合は、当期の増減額の入力内容が正しいかどうかを確認の上、必要に応じてデータを修正してください。

### (2) [期首現在利益積立金額]欄

メニュー301>[5(1)：前期繰越利益積立金額の確認(入力)]WS>[税効果会計の調整額の入力]ボタン>[繰延税金資産等の内訳]タブで入力した金額が表示されます。

### (3) [適格合併等の引継額]欄

メニュー301(403)>[5(1)：適格合併等による利益積立金額の引継]WS>[税効果会計の調整額の入力]ボタン>[繰延税金資産等の内訳]タブで入力した金額が表示されます。

### 入力例 ▶ 繰延税金資産の入力

次の会計処理をもとに入力した場合の別表5(1)は、次のとおりです(単位：円)。

(借) 繰延税金資産 18,200,000 (貸) 法人税等調整額 18,200,000

#### ■入力

内訳	別表五(一)の摘要	期首現在利益積立金額①	適格合併等の引継額(当期の増③)	当期の増④	当期の減⑤
	繰延税金資産			-18,200,000	
	繰延税金負債				

#### ■別表5(1)

(単位：円)

区分	期首利益積立金額	減	増	翌期首利益積立金額
繰延税金資産	.....		△18,200,000	.....

## 7. 別表5(1)：その他有価証券の評価差額の別表調理

メニュー401>[5(1)：その他有価証券の評価差額の別表調理]WSでは、その他有価証券の評価差額を純資産の部に計上した場合に、別表5(1)に記載する内容を入力します。

貸借対照表の「その他有価証券評価差額金」を入力

繰延税金資産(評価差額分)はマイナス金額、繰延税金負債(評価差額分)はプラス金額で入力

差異が「0」となっているかを確認してください。

### (1) [その他有価証券評価差額金]欄

[その他有価証券評価差額金(E)]欄に会計上の金額を入力することにより、申告調整データと差異がないかを[差異確認(E-F)]欄で確認できます。

### (2) [その他有価証券(評価益)]欄、[その他有価証券(評価損)]欄

「その他有価証券」の評価益は**マイナス金額**で、評価損は**プラス金額**で入力します。

## 入力例▶ その他有価証券の評価差額の入力例

次の会計処理をもとに入力した場合の別表5(1)は、次のとおりです。

(借) その他有価証券評価差額金 2,400,000 (貸) 投資有価証券 4,000,000  
繰延税金資産 1,600,000

### ■入力

勘定科目名	前期末残高	期首戻入額	当期末残高
その他有価証券評価差額金(E)	-3,000,000	-3,000,000	-2,400,000
別表五(一)の摘要	期首利益積立金①	当期の減② (前期戻入額)	当期の増③ (当期末計上額)
その他有価証券(評価益)			
その他有価証券(評価損)	5,000,000	5,000,000	4,000,000
繰延税金資産(評価差額分)	-2,000,000	-2,000,000	-1,600,000
繰延税金負債(評価差額分)			
その他有価証券評価差額(F)	-3,000,000	-3,000,000	-2,400,000
差異確認(E-F)	0	0	0

### ■別表5(1)

(単位：円)

区分	期首利益積立金額	減	増	翌期首利益積立金額
その他有価証券(評価損)	5,000,000	5,000,000	4,000,000	4,000,000
繰延税金資産(その他有価証券評価差額分)	△2,000,000	△2,000,000	△1,600,000	△1,600,000
その他有価証券評価差額	△3,000,000	△3,000,000	△2,400,000	△2,400,000

## 8. 別表5(1)：繰延ヘッジ損益に関する別表調理

メニュー401>[5(1)：繰延ヘッジ損益に関する別表調理]WSでは、ヘッジ会計で時価評価されているヘッジ手段に係る評価差額について純資産の部に計上した場合に、別表5(1)に記載する内容を入力します。

勘定科目名	前期末残高	期首戻入額	当期末残高
繰延ヘッジ損益(G)	20,814,000	20,814,000	34,690,000
別表五(一)の摘要	期首利益積立金①	当期の減② (前期末戻入額)	当期の増③ (当期末計上額)
繰延ヘッジ損益(評価益)	-30,000,000	-30,000,000	-50,000,000
繰延ヘッジ損益(評価損)			
繰延税金資産(評価差額分)			
繰延税金負債(評価差額分)	9,186,000	9,186,000	15,310,000
繰延ヘッジ損益評価差額(H)	20,814,000	20,814,000	34,690,000
差異確認(G-H)	0	0	0

▲ 1.「繰延ヘッジ損益(G)」欄に会計上の金額を入力することにより、申告調整データと差異がないかを[差異確認(G-H)]欄で確認できます。  
2.「繰延ヘッジ損益」の評価益はマイナス金額で入力、評価損はプラス金額で入力します。

差異が「0」となっているかを確認してください。

### (1) [繰延ヘッジ損益(G)]欄

[繰延ヘッジ損益(G)]欄に会計上の金額を入力することにより、申告調整データと差異がないかを[差異確認(G-H)]欄で確認できます。

### (2) [繰延ヘッジ損益(評価益)]欄、[繰延ヘッジ損益(評価損)]欄

「繰延ヘッジ損益」の評価益は**マイナス金額**で入力し、評価損は**プラス金額**で入力します。

## 入力例▶ 繰延ヘッジ損益の評価差額の入力例

次の会計処理をもとに入力した場合の別表5(1)は、次のとおりです。

(借) 為替予約 50,000,000 (貸) 繰延ヘッジ損益 30,000,000

繰延税金負債 20,000,000

### ■入力

勘定科目名	前期末残高	期首戻入額	当期末残高
繰延ヘッジ損益(G)	18,000,000	18,000,000	30,000,000
別表五(一)の摘要	期首利益積立金①	当期の減② (前期末戻入額)	当期の増③ (当期末計上額)
繰延ヘッジ損益(評価益)	-30,000,000	-30,000,000	-50,000,000
繰延ヘッジ損益(評価損)			
繰延税金資産(評価差額分)			
繰延税金負債(評価差額分)	12,000,000	12,000,000	20,000,000
繰延ヘッジ損益評価差額(H)	18,000,000	18,000,000	30,000,000
差異確認(G-H)	0	0	0

### ■別表5(1)

(単位：円)

区分	期首利益積立金額	減	増	翌期首利益積立金額
繰延ヘッジ損益(評価益)	△30,000,000	△30,000,000	△50,000,000	△50,000,000
繰延税金負債(繰延ヘッジ損益評価差額分)	12,000,000	12,000,000	20,000,000	20,000,000
繰延ヘッジ損益評価差額	18,000,000	18,000,000	30,000,000	30,000,000